

公民館だより No.115

2010. 7. 15

ひがしの

東野公民館発行 恵那市東野1342-1 ☎26-2555

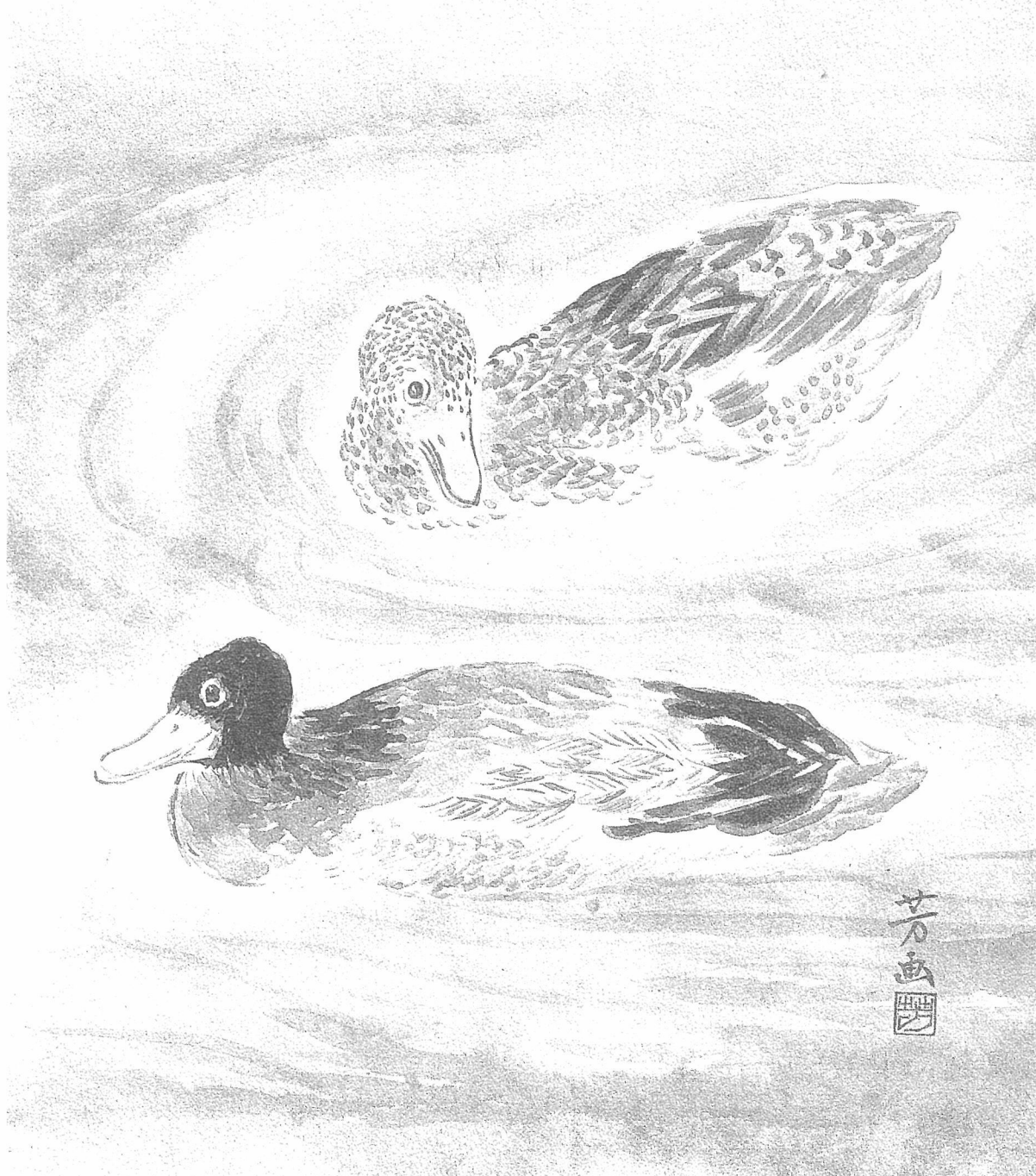
人口 1,839 人

(男) 895

(女) 944

世帯数 609 戸

(H22.7.1 現在)



芳画

水墨画による「鴨」

楽しい墨絵の会 西尾 芳 画

話題

● シジュウカラの雛が ポストの中で孵りました

深津康雄さん（中辻）宅

中辻の深津康雄さん方の玄関先の木製の新聞受けにシジュウカラが卵を産み雛が孵りました。6月の始め、奥さんが新聞受けに8個の卵を産んでいる事に気づきました。親鳥が卵を温められるようにと、郵便物や新聞を入れないようにして静かに見守っていました。8個のうち7個の卵が孵り、親鳥が毎日餌を運んできます。今では雛も大きくなって、ここ2、3日中には巣立っていきそうです。奥さんは、「わたしは小鳥が好きで現在熱中しています。今年は家の近くに沢山の小鳥がやってきます。このシジュウカラが飛び立っていきとね」と少々寂し気でした。お二人に話を聞いて親鳥がピッピと餌を運んできました。



玄関先の新聞受けの中（6月24日撮影）



調理室を二階から見学

学校給食の歴史

日本の学校給食の歴史は、明治22年に山形県鶴岡市の私立忠愛小学校で、貧困のためにお昼ご飯を持ってこれない子どもたちのために、おにぎりや焼き魚などの食事を提供したのがはじまりとされています。その後、国の補助を得て大都会を中心に全国的に広まってきました。昭和18年頃戦況が激しくなり学校給食も中断されました。終戦後、物資食料不足から日本中が飢えていた頃、おかげに雑穀やイモ類を混ぜて食べるという食生活でした。このような日本の子どもを見てアメリカなどから救援物資が沢山送られて来ました。主に脱脂粉乳や小麦粉といったもので、これらを使って戦後の学校給食が再び始められました。昭和43学校給食が教育活動の一環としてかわりを持つようになりました。昭和51年には「米飯給食」が導入、メニューの幅が飛躍的に広がりました。平成元年学校給食100周年となり、ますます教育的意味合いが強まってきました。現在では、こどもたち一人ひとりが自分の健康のために自ら食事をコントロールするいわゆる「自己管理能力の育成」を、学校給食を通じて培うことができるよう、指導していく事が求められています。皆さんにはどんな給食の思い出がありますか。

● 東野すくすくクラブ 給食センター訪問 6・25（金）

6月25日、東野すくすくクラブの親子24人が恵那市給食センターを訪れました。10時ごろより施設を見学、栄養士さんより施設の概要や調理の方法、調理手順などの説明を受けました。家庭では見られない調理道具の大きさにびっくり。調理室には冷房が無く、夏は暑くて作業が大変。そんな中で調理してくださる給食のあり難さがわかりましたと感想を語ってくれました。すくすくクラブではこうした施設見学をはじめ、遠足や、料理教室、親子作品作りなど、月1回程度の活動を行なっています。子どもをお持ちのおかあさん、一緒に活動してみませんか。

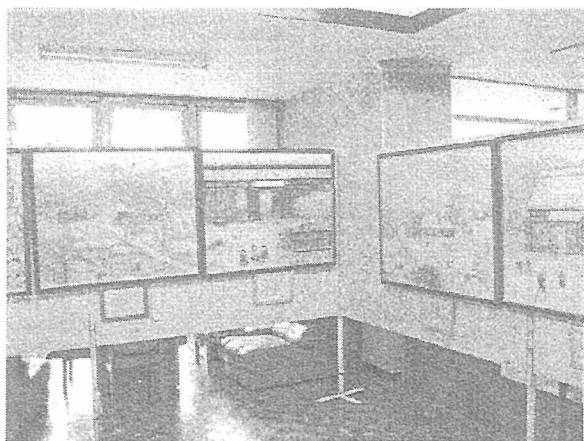
● 第6回恵那市少年の主張大会 足立紗穂さん（北中切）が会場

6月19日（土）平成22年度第6回恵那市少年の主張大会が恵那市文化センターで開催されました。市内の中学校の代表者13名が、未来への希望や、社会に対する意見、人々に訴えたい事などについて発表しました。この大会に北中切の足立紗穂さん（中学3年）が恵那東中学校の代表として出場しました。足立さんは、テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動や、大人社会の様々な出来事に対する意見を、「真実を見きわめる」と題して発表しました。上位入賞こそはのがしましたが力強い立派な発表でした。

● 長谷川三千夫さん 「詩画展」

東野まちづくり委員会
福祉部会が主催

5月13日から20日までの8日間、東野公民館1階ロビーで東野在住の長谷川三千夫さんの「詩画展」が開催されました。長谷川さんは昨年の9月に恵那文化センターで「八十一歳の素朴画展」を開かれました。今回は、東野まちづくり委員会福祉部会が、長谷川さんの作品から元気をいただこうと企画したものです。会場には懐かしさや暖かさ、そして感動が広がり、訪れた皆さんの昔の生活の話で賑わっています。



春・夏・秋・冬作品22点が展示されました。
絵の中で子どもも大人もみんな笑っています。



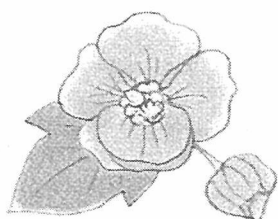
最終日の5月20日には講演会が開かれました。長谷川さんは、作品の1つひとつに込めた思いを熱く語られ、参加した皆さんは古きよき時代の生活を懐かしく思い出していました。

○ 酔芙蓉公園

長谷川さんは平成18年に念願の酔芙蓉公園を白坂地内に造られました。500株ほどを植えられ夏になると公園には赤、白、ピンクなど色とりどりの酔芙蓉が咲き乱れ、訪れた人たちの目を楽しませています。

○ 酔芙蓉 (すいふよう)

遠く平安の頃から鑑賞され人々に愛されてきた花。その数少ない園芸品種の一つが酔芙蓉です。芙蓉は中国ではもともと「蓮の花」とのこと。一方、酔芙蓉は朝のうちは純白、午後には淡い紅色、夕方から夜にかけては紅色になります。



を読んだりしています。ある日の事です。1年生から6年生まで全学年のそれぞれ各2、3人のグループが来ました。ちよつとめずらしかつたので思わず写真におさめました。様子を見てみると一斉に宿題を始めました。みんな静かに、また上級生が下級生を教えている姿もありました。いつも本を借りていく女の子もいます。こんな風に公民館を利用してくれるとうれしく思います。小学生の皆さん気楽に立ち寄ってください。



互いに教えあつて宿題をしています。

● 公民館で 宿題を します。

東野小学校の皆さんが放課後公民館にやってきました。放課後の30分ほどの時間ですが、宿題をしたり、本



学年ごとで宿題を始めました。

東野ほたる祭り 6月19日(土)

東野ほたる祭りが6月19日宗久寺駐車場をメイン会場に行なわれました。夕方には一時的に大雨が降り開催が危ぶまれましたが、開催予定時間になると雨も上がり無事開催する事ができました。沢山の親子連れで賑わい、ほたるが飛び始める8時頃には200名余の人でごった返しました。恒例となった「おもちゃ」、「ラムネ」や「ジュース」の販売、「パネルによるほたる学習」、「版画刷り体験コーナー」には元気な子どもたちが集まりました。今年はず候不順で、ほたるが飛び姿が見られるか心配していましたが、予想以上に沢山のほたるが飛び交い、訪れた人たちはほたるの灯りが演出する風情を楽しんでいました。



ほたる祭りに向けて、吉村先生より版画刷りの講習を受けました。(6月12日(土) 公民館にて)



おもちゃ販売コーナー (東雲会)



ラムネ・ジュース販売コーナー (開発振興会)



あの時の東野ほたる祭り

平成13年6月23日、第1回東野ほたる祭りが東野駅前定の蓮寺川一帯で開催されました。依頼、毎年行なわれるようになり今年で10回目となります。

あの第1回の東野ほたる祭りについて、当時の「公民館だより」は次のように書いています。

◆ 6月23日、東野史上初めてのほたる祭りは、梅雨時の心配を一蹴する事業となりました。8時を過ぎると東野駅前広場には「続々と」子どもたちが参集してきました。(700名余が集まったと書いています。)

あれだけの人を東野の里に結集させた源泉は何であったのでしょうか。ある人は、あの立て看板(振興会・東雲会・青少年育成会義の連携事業の産物)だ。ある人は、手作りのチラシのせいだ。またある人は新聞に掲載されたからだ。環境問題と合致さタイミングよい計画だったからだ。さわやかな夢をみさせる「祭り」でした。◆



ほたる説明コーナー (青少年育成会義)

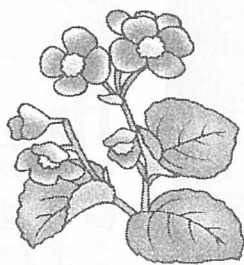


版画刷り体験コーナー (青少年育成会義)

環境整備あれこれ

東雲会 花壇に花植え 6月4日

東野東雲会（与合和武会長）が6月4日午前、東野地内の3箇所（浜井場、大門、南中切）の道路わき花壇でマリーゴールドとベゴニアの苗700株を植えつけました。毎年、初夏と秋の2回おこなっているもので、好天に恵まれたこの日、皆さんにこやかに手際よく丁寧に作業にあたっていました。植えられた花はこれから夏にかけてすくすくと成長し、道行く人の目を楽しませてくれます。



ベゴニア



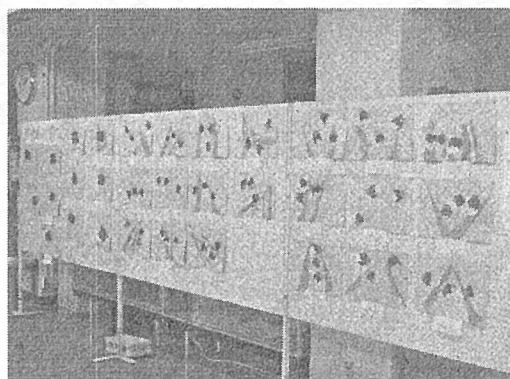
一株ずつ丁寧に植えつけました。

東野公民館事務所前の 花壇に朝顔とベゴニア を植えました。

昨年好評だった朝顔を今年も植えました。夏の暑い日の光を遮ってくれる朝顔が花を咲かせてくれるのを今から楽しみにしています。「ゴーヤ」を植えたらとか、「ヘチマ」がいいとか、公民館にこられる方がいろいろと助言をくださいます。

東野幼稚園児の

ほたる作品を展示 6・11～22



東野ほたる祭りのPRを兼ねて、東野幼稚園児によるほたる作品を公民館ロビーに展示しました。3歳児から5歳児まで31人の作品が一同に展示され沢山の方に見ていただきました。園児の皆さん、そして指導された先生方ありがとうございました。

退職公務員OB会

環境整備作業

6月23日恵那斎場下の道路脇面の草刈作業を行いました。会員18名が参加して行なわれた作業は梅雨時にもかかわらず雨も止み、順調に終わりました。緑化推進事業として東野まちづくり委員会環境美化部会との連携で、薄墨桜、小彼岸桜、莊川桜、臥龍桜が植えられ大切に育てられています。数年もすれば美しい桜が眺められる事でしょう。



平成22年度 恵那市民講座



①身近な植物見て歩き



②レカンフラワー



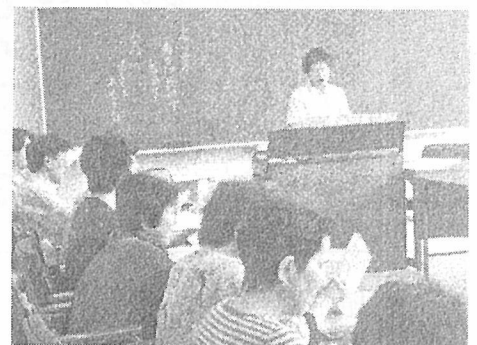
③Walk & Talk



④リフレッシュ体操



⑤旬彩料

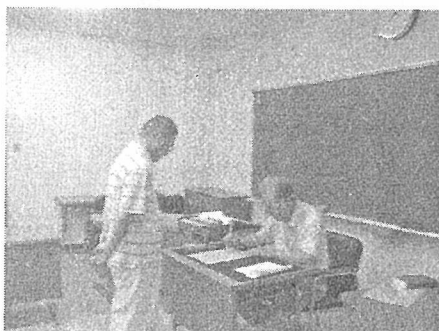


⑥いきいき歌声講座



⑦囲碁を楽しもう

- 平成22年度恵那市市民講座が始まり東野公民館では以下の10講座を開講しました。
- ① 身近な植物見て歩き (講師 高水正夫)
・受講者8名
 - ② レカンフラワー (講師 安藤典子)
・受講者7名
 - ③ walk&talk (講師 赤尾袈夫)
・受講者9名
 - ④ リフレッシュ体操 (講師 吉田宏子)
・受講者26名
 - ⑤ 旬彩料理 (講師 土方紀代子)
・受講者20名
 - ⑥ いきいき歌声講座 (講師 林 精子)
・受講者32名
 - ⑦ 囲碁を楽しもう (講師 西尾宏見)
・受講者13名
 - ⑧ かな書道 (講師 市川恵一)
・受講者10名
 - ⑨ 東野ネイチャークラブ (講師 赤尾友和)
・受講者12名
 - ⑩ おいしいおやつ作り (講師 熊崎佳代)
・受講者10名



⑧かな書道



⑨東野ネイチャークラブ



⑩おいしいおやつ作り

投稿

「句集」に見る東野の戦中

ここに、所有者から借り受けた古びたガリ版摺りの俳句集がある。

表紙には「豆の花」とあり、昭和十七年十一月から二十一年までを記録されたものです。

代表者に 西尾狂果、桐山麦舟、加藤白夢、(途中) 小木曾溪風とあり毎月、会が開かれていたようです。十七年十一月の句会。

この日の兼題は「霜」「麦蒔」
馬売りて馬桶寒し今朝の霜 溪風
征戦の兄を偲ぶる霜の朝 春子
霜の朝赤道越えし軍事便 瑞月
帰農して麦蒔き楽し秋晴るる 狂果
軍用機視る手庇や麦を蒔く 清水
麦蒔きや都戻りの慣れぬ手で 豊子
稚児負いて麦蒔く人や兵の妻 三郎
麦蒔きの土産話や故郷の母 湖月
麦を蒔く遺族の家の奉仕哉 白夢
炭焼きの煙たなびく霜の朝 松雄
陽は落ちぬ大麦小麦蒔き終えし 白舟
むつまじく語り麦蒔き嫁と姑 千草
朗らかに麦蒔きにけり隣組 雲橋
明日はまた召され征く身に麦を蒔く 案山子
主食に準じた麦の栽培が詠われている。

十八年に入り世相を現した句を拾ってみると

元朝や生餅囃る壕の中 瑞月
召さるべき身はまだ残る松の内 同
帰還せし兄よく語る炬燵哉 溪雪
戦場の夢破れたり置炬燵 雲橋
藁灰の匂い嬉しき初炬燵 泰山
丈夫の晴れの門出や薄氷 英子
征きし子を持ちたる誇を蒔く 抱風子
ソロモンの野戦ベットや四方拝 溪声

木の芽味噌玄米飯に口慣れて 案山子
新しく遺族となりて聞く河鹿 同
鳥屋番もすれば草履も作るなり 俳一步
征戦に征でて音なし除夜の鐘 白夢
家族を戦地に送る、一時帰還、戦死、
鳥屋、寺に梵鐘が無く……
十九年以後では

寒き夜やいろりを囲む隣組 三朗
新しき吊り橋かかり山眠る 麦舟如
水の水の豊かに紙漉けり 芦舟
麦踏女名古屋訛の答えかな 瑞月
音頭とる人征きしま盆踊り 虹村
纏らぬ供米協議隙間風 狂果
尉安劇見つつ河鹿の聞こえる 溪風
明日は征く心すがしく蚊帳の内 三朗
迎え火やかつてアーチを建てし庭 案山子
敵しい世相に……

これは冊子の中の一部であります。
これらの句により当時の社会状況、家族の思い、文化思考の伝わる貴重な句集である。作者名は皆俳号を使われており、どこのご家族か判らない、ところどころに三宅溪声、三宅英子嬢などとあり姓は間違いないと思われる。また「英子、鍾美本名で登場」とある、心当たりの方が見えるかもしれない。他にも泉枝、朴々子、桂舟、晴風などの俳号。

ちなみに運営会費は判らないが式円、参円の寄付……とあり(当時の米一俵一八円四十銭くらい) 楽しい会であったと思われる。今ではこの方々を迎えることができず残念だがこの中の鈴木抱風子先生、丸山瑞月(益夫)様のご指導があつて現在の花無山句会に脈打たれていくことの思いと貴重な資料に出会えた喜び、つい駄文を。

(花無山句会 千藤恵三)

文芸

花無山六月句会

市川茶山

・青薄一株残し隠居部屋

市川芳子

・梅漬ける使い慣れたる甕重し

内木伊都子

・物差しの屋号のうすれ梅雨じめり

西尾美恵子

・晩年の早苗饗終へて湯浴みかな

松本はるか

・履き慣れし靴とて重し梅雨の旅

千藤恵三

・老鶯の声も楽しみ湖畔ゆく

サークル短歌 (六月詠草)

鈴木喜一郎

・型古き蛍光灯の紐引けば

しばらく付かぬ息を吸うごと

・蛍光管のまたたき止まぬ天井は

砂漠の色して影を失う

市川茂子

・小屋の屋根青のペンキで塗り終えて

飛行機雲の空を眺むる

・満天星(どうだん)の花をくぐりて通り過ぐ

根の上湖畔に風を受けつつ

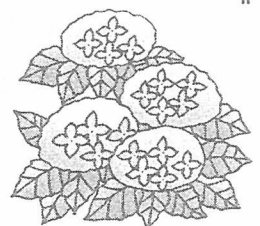
赤尾袈夫

・桑の実を食べば自ずと湧いてくる

少年時代のみちくさのこと

・草の葉をぽんと鳴らして空をみる

杳く誰かに音聞こえんか



東野体育協会コーナ―



個人賞の皆さん(左から2位渡辺英子さん、優勝伊藤官夫さん、3位丸山達子さん)



マレットゴルフ優勝した5分団の皆さん

力をいただきました。ありがとうございました。

本年度のこれまでの行事の結果を報告します。
 ○第14回マレットゴルフ大会 5月30日(日)
 前年まで4連覇を達成していた3上分団の連覇を阻んだのは5分団でした。2位の6分団とはわずかに2打差でした。個人も5分団の伊藤官夫さんが優勝しました。
 (団体の部) 優勝 5分団 2位 6分団 3位 3上分団 4位 1分団 5位 4分団 6位 7分団 7位 3下分団 8位 2分団 (個人の部) 優勝 伊藤官夫さん、2位 渡辺英子さん、3位 丸山達子さん
 ※本年も東野マレットゴルフの皆さんの協力のおかげでした。



インディアカ女性優勝チーム(2分団)の皆さん



インディアカ男性優勝チーム(5分団)の皆さん

気あいあいとゲームを楽しむことができました。東

○第6回市民陸上大会 6月20日(日)
 本年で6回目となる市民陸上大会がまきがね公園で開催されました。主な入賞者は次のとおりです。
 ▽50歳以上男子百メートル 1位 千藤富久(南天王前) ▽50歳以上男子千五百メートル 3位 加藤武司(白坂)
 ○第22回レクレーションバレーボール大会 7月10日(土)
 本年は、暑い夏に開催しましたが、多数の参加を得て、和

○第21回インディアカ大会 6月12日(土)
 今回で第21回をむかえるこの大会は、男女別々の1チーム4人編成で開催します。「東野インディアカ同好会」の協力を得て、今年で第21回目となりました。結果は、総合で5分団の優勝となりました。
 優勝 5分団 2位 2分団 3上分団 4位 3下分団 5位 6分団 6位 7分団 棄権 1分団、4分団



レクバレー優勝チーム(3上分団)の皆さん

棄権 1分団、4分団

野レクバレーの皆さん、ご協力ありがとうございました。成績は次のとおりです。
 優勝 3上分団 2位 7分団 3位 5分団 4位 3下分団 5位 6分団 6位 2分団



○第37回ソフトボール大会 11月7日(日)
 東野小学校グラウンドにて
 ◎前半の行事結果を報告いたしました。住民大会のチーム編成には推進委員の皆様大変ご苦労様です。自治会の皆様のますますのご協力をお願いいたします。(東野体育協会)

以上が5月から7月の行事の結果ですが、今後8月に市民大会の夏季大会(軟式野球、ソフトボール、クレイ射撃、アーチェリー、バドミントンなど)が開催されます。多くの方々の参加を期待します。

おしらせ

第29回東野納涼夏祭り

東野納涼夏祭りが8月14日(土)に開催されます。
楽しいイベントが計画されています。皆さんそろって参加してください。
花火は8時40分からはやります。

日時：8月14日(土) 18:00～21:00(予定)
会場：東野公民館駐車場



東野公民館の図書購入費

平成22年度 中央図書館関係事業として市内の各公民館に
図書購入費が当てられました。

東野公民館には図書購入費20万円、雑誌・図書用事務消耗
品費1万7千円が充てられました。
ご希望の図書がありましたら公民館までお知らせください。出
来るだけご要望に応じていきたいと思ひます。

★詳細は東野公民館まで。☎26-2555

◆休館日(予定)

変更の場合は、玄関前に表示します。

7月 5、11、12、20、21、26
8月 2、9、16、23、30
9月 6、13、21、22、23、27



夏休み子ども講座

東野公民館では夏休み子ども講
座を2講座開催します。お友達を
誘って来てね。

(受付7月10日～)

●夏休み!火おこし&ピザづくり

期 日：7月30日(金)
10時～15時

材料費：500円

講 師：赤尾友和

●ロクロ体験とさいころコマづくり

期 日：8月3日(火)
10時～12時

材料費：300円

講 師：小林一雄

★詳細は東野公民館まで。

☎26-2555

さわやかで柔らかな風が心地よい5月の
ある日、春日井市から来たという10名ほどの
団体が早朝に公民館を訪ねてこられた。
「絵画サークルで東野の風景を描きに来ま
した。このあたりに一日いますが公民館のト
イレと駐車場を貸していただいただけませんか。よ
ろしくお願いします。」ということであった。
弁当持参で来られたようで、挨拶が終わる
とすぐに農協の倉庫付近や緑館近くの道路
わきに座って、笠置山方面に向かってデッサ
ンを始められた。ちよつとのぞいてみると一
人の女性が話しかけてこられた。「あの山は
何という山ですか。美しい山ですね。」
中学の卒業記念に友達や先生と登った思
い出のある懐かしい笠置山をじっくり眺め
て、あらためて美しいと思った。普段から目
にしている風景に限らず、人との触れ合いに
しても忘れてしまっていること、気づかずに
いることは沢山ある。挨拶にしても然り。「こ
んにちは」とか「ありがとう」、「ごめんなさ
い」という言葉一つで場が和んだりする。
夕方になって、朝の団体の代表者の方が事
務所に入ってこられ「ありがとうございま
した。お世話になりました。」と声をかけて帰
って行かれた。沢山の人に東野を訪れて欲
しいと思っているが、今日の団体さんは爽やか
な訪問者、「招きたい客」であった。

公民館長

編集後記